



みまさかスローライフ列車 心を込めたおもてなし

5月12・13日 JR津山駅～智頭駅

JR因美線の春と秋の風物詩「みまさかスローライフ列車」が運行され、鉄道ファンや親子連れなど約450人が懐かしい列車の旅を満喫しました。12日には運行5周年を記念した出発式がJR津山駅で行われました。また、両日、沿線の駅では、地元の人たちが出店などで乗客をもてなしました。

大阪市から親子4人で参加した児玉慶三さんは「各駅で歓迎していただき楽しめました。常連の人もいて、その人たちの気持ちが分かりました」と満足そうに話してくれました。



作州^{かすりはた}絣織り人養成講座開講式 伝統を紡ぐ作州^{かすりはた}絣織り

5月12・13日 作州民芸館（西今町）

郷土伝統的工芸「作州絣」を後世に伝えるために開催された養成講座。大正期に手工業で栄えた城西地区にある作州民芸館に、作州絣の復活に熱意を持った14人が集まりました。講座では、1年間をかけて機織りの基本を学び、草木染めにして絣を織り、伝統や文化、技術を伝承していきます。

受講生からは「工芸品は後継者がいなければ絶えてしまうもの。私も絣織りを覚えて伝承者の1人になりたい」「手作りの絣の良さを伝えていきたい」などと意欲にあふれた声が聞かれました。

道の駅「久米の里」仙人まつり

憧れのモビルスーツに乗れたよ

4月29日 道の駅「久米の里」(宮尾)



道の駅「久米の里」の仙人まつり。餅投げやビンゴゲーム、歌謡ショー、地域の各団体によるテント村など盛りだくさんのイベントが催され、家族連れなど大勢の人でにぎわいました。モビルスーツの搭乗コーナーには長い行列ができ、子どもと並んでいた竹浪良太さん（高梁市）は「ガンダムが好きで、今日は搭乗できると聞き、楽しみにやってきました」と話してくれました。

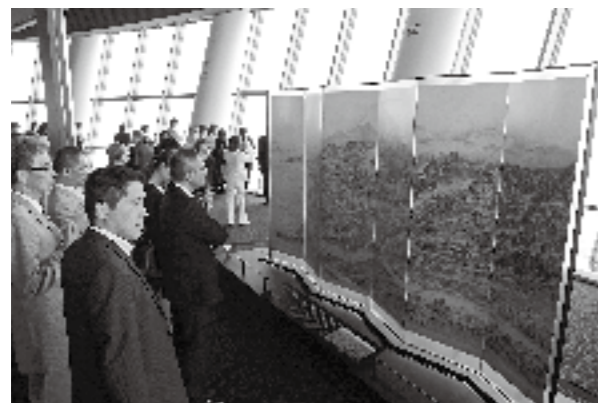
また、この日、通算350万人目の来場者となった愛知県から訪れた家族連れに、記念品が贈られました。

東京スカイツリータウン開業記念祝 地上350mに津山の屏風

5月15・17日 東京スカイツリー(東京都墨田区)

東京スカイツリータウンのグランドオープン（5月22日）に先立ち、津山市の江戸一目図屏風の複製が東京スカイツリーに設置されることにあたり、資料や情報の提供を行った関係者が「東京スカイツリータウン開業記念祝」に出席しました。

両日とも、東京スカイツリーの展望デッキと展望回廊フロアはにぎわい、多くの人が屏風の前で立ち止まり、細かい描写に見入っていました。屏風が注目を浴びることで、津山もたくさんの人から注目を浴びるといいですね。



親子で学ぶ日食講座 これで日食観測はバッチリ

5月13日 中央公民館（大谷）

5月21日に観測される金環日食を前に、日食の不思議について知ってもらおうと開催された講座に、110人の親子が参加しました。

講師を務めた岡山天体物理観測所の職員が、日食のしくみや岡山県は天体観測の国内最適地であることなどを説明。続いて、小さな穴を通して日食を観測するピンホール式観測箱を親子で楽しみながら作りました。出来上がった観測箱を使って太陽を観測すると「わ～、見える」「太陽はやっぱり丸いじゃ～」など歓声があがりました。

阿波溪流子ども釣り大会 やった～釣れた～大漁だ～

5月5日 阿波溪流釣り場（阿波）

こどもの日恒例の釣り大会も今回で30回目。たくさんの子びつ釣り師が釣り糸を垂れました。

1人でじっと浮きを見つめる子どももいれば、お父さんに教えてもらいながら不安げに竿を持つ子どももいました。魚が針に掛かると「きたっ」などと大喜びで竿を上げていました。家族7人で参加した内田祐暉さん（加茂小5年生）は「釣れた時はうれしいし、面白い。家族全員分、7匹は釣りたいな」と笑顔で答えてくれました。



手びねり初級教室 土と親しむ

4月28日 勝北陶芸の里工房（杉宮）

勝北陶芸の里工房で開催している手びねりの陶芸教室。はじめに、備前焼に使う土の説明を聞き、粘土をひも状にする練習をします。「指先やからだのリズムを覚えて」などの指導を受け、集中して土をこねます。

続いて、ろくろの上で粘土を器状にしていく作業。受講生は「早く器を作れるようになりたい」と一生懸命に取り組んでいました。6月には窯焚きの予定。作品が出来上がるのが楽しみです。